

「死の陰の谷を行くときもわたしは災いを恐れない。  
あなたがわたしと共にいてくださる。」  
(詩編 23:4)

† 苦境の中におられる日本聖公会の兄弟姉妹の方々へ

まず、去る3月11日に日本の東北地方で発生した超大型地震と津波、そして続く余震と原発災害により、第2次世界大戦が終わって以来、経験したことのない大きい被害をこうむっている日本社会と日本聖公会のすべての兄弟姉妹に神さまのみ名により慰労の心をお伝えします。

かつて1995年度阪神淡路大震災の際に、大韓聖公会の青年たちと共に復旧現場を訪ねて兄弟愛を分かち合いましたが、そこから大地震による惨事の苦痛がどんなものなのかを思い知らされました。ところが今回の巨大地震と大津波による被害は、その時のものと比べにならないほど莫大であることで、私としては心痛まずにはられません。

今大韓聖公会の全国の教会は心を合わせて被災地の犠牲者のご家族のため祈っています。また私たちの心の表しとして募金活動を展開しています。小さなものですが、私たちの祈りが被災地の方々に伝えられ、深い慰めとなりますように望んでおります。

私たちが信じる神様は、苦境の中で真の平和と希望を与えられる神様でおられます。神様が私たちの兄弟姉妹に与えられた試練の意味を深く黙想しつつ、さらに神様のみ旨に寄り添うことが出来ますことを願います。

様々なチャネルを通じて被災地の状況を伺っています。日韓で共に協力することがありましたら、実兄弟への相談と同じく是非ご教示ください。私たちも、出来る限りの最善を尽くしてキリストにあって日韓の聖公会が主にあって家族であることを現わさせて頂きたいと思っております。

困難中にも落ち着いて対応している日本社会に尊敬を表わしながら、原発の爆発や続く余震によって、今まで以上の追加犠牲者が現れないことを切実に祈ります。

2011年 3月 15日  
大韓聖公会 議長主教  
主教 パウロ 金 根祥